多文化共生・加入促進
A 区分

墨田区

菊川一丁目町会

事業名

令和３年度菊川一丁目町会 餅つき大会を通じた世代間交流・多文化共生社会づくり事業

事業概要

●町内会の世代間交流を図るため、町内の老人会、子供会、ボランティアなどとも協力し、餅つき大会を実施。

●会場入口で町会・子供会への加入促進パンフレットを配布するとともに、会場内で町会の活動をパネルで紹介。

●町内の日本語学校の生徒に餅つき大会への参加を呼びかけ、町内住民には多文化共生チラシ300部を戸別に配布。

実施期間　令和３年７月20日～12月25日
参加人数　316名
事業総額　約26万4,500円
（地域の底力発展事業助成金　20万円）

役割分担
《 会場設営・餅つき（町会役員を中心に約30名）》
体育館や通路の床が傷まないように養生シートを貼り、小学校から長机、椅子、パネルなどを借り会場を設営
《3種類の餅づくり、豚汁の調理と配布（約30名）》
ボランティアが手分けをして担当

実施までの主な流れ

令和３年
７月20日　町会役員会、子供会で「餅つき大会」実施予定を発表
８月１日　回覧で「餅つき大会」開催予定を告知
10月12日　役員会で会場の設営方法や新型コロナ感染防止対策など開催内容を検討
11月９日　当日のタイムスケジュールを最終確認
11月27日　備品などを事前に持ち込み準備
11月28日　「餅つき大会」を開催

主な経費（助成対象）

● 物品購入費
餅つき材料（餅、粒あん、きな粉）、豚汁食材、容器・はし、会場の養生に必要なブルーシート・テープなど、ワイヤレスアンプ・ハンドマイク・ワイヤレスマイク

● レンタル・リース料
石臼セット、プロパン、調整器、コンロ

会場となった中和小学校の体育館

事業の実施内容

● 餅つき大会

実施場所　墨田区立中和小学校
開催日　令和３年11月28日

令和２年度にコロナ禍の影響で中止となった「餅つき大会」を、令和３年度は規模を縮小して実施した。

親子連れが多数訪れ、町会や協力団体の人たちと世代を超えた交流が実現。餅つき体験を楽しむ子供たちなどで賑わいを見せた。

また、会場の入り口では、町会や子供会への加入を呼びかけるパンフレットを配布。さらに、会場内に町会や子供会、太鼓サークルなどの活動紹介のパネルを展示して加入促進を図るとともに交流を深めた。

参加を呼びかけた町内の日本語学校からは、中国人の女生徒が来場。餅つきなど日本の文化に触れ、とてもいい経験ができたと話していた。

町会の活動紹介をパネル展示し、加入を呼びかけ（上）。地区内の日本語学校に「餅つき大会」のポスターを持参（右）。

事業による成果・効果

町会内の団体の絆が深まる。多文化共生社会づくりの第一歩に

町会と菊寿会（老人会）、菊一レスキュー隊（消防団）、ボランティア、子供会などが「餅つき大会」で協力することで、地域のつながりが深まった。とくに、子供会の若い保護者層が多く参加し、会場の設営などで欠かせない存在として、力を発揮した。

令和３年度に新型コロナ感染防止対策を徹底して開催に成功したことから、令和４年度は提供する餅・豚汁を例年並みの500食として開催。引き続き多文化共生を掲げ、町会内の外国人が多く勤務する企業にも参加を呼びかけたところ、中国やタイ、ミャンマーの人たちが参加。つきたての餅を味わい住民との交流を深めた。

「餡子もちが美味しい」とミャンマーから日本に来て地区内の企業で働くキン・タンダートゥンさん（「令和４年度餅つき大会」から）。

事業を振り返って

今後も交流の機会を増やし、皆で意識を高めていきたい

菊川一丁目町会で会計を務める佐藤令二さんは、町会として多文化共生の社会づくりを進めることにした背景について、「都の事業をきっかけに、町会の人たちで話し合ってみると、町会の地区内には日本語学校のほか、ミャンマーの人たちが多く働く地元企業もあるなど、地区内で活動している外国人が結構いらっしゃることが分かりました」と説明する。「餅つき大会」は、まず自分たちの地域で過ごす外国人との接点をつくり、相互に理解を深める第一歩となっている。「様々な国の人たちと共生できる社会づくりを進めていく上で、町内の人たちが意識を高めていけるように、これからもこうした町会の催しで、交流の機会を増やしていきたい」と話す。